

平成 26 年度の海部会の活動成果報告（フレーム）

1. 海部会の目標とテーマ

海部会の 3 ヶ年（平成 25 年度～27 年度）の活動目標とテーマを以下に示す。

（目標） 流域圏でつくる「親しみやすい豊かな海」の実現	
<p>（3 ヶ年の目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●海への理解はまだまだ浅く、フィールドワークを主体とするWGや勉強会などの実施により、積極的な情報発信・情報共有を図り、流域圏市民の海への理解を深める。 ●海に大きく影響する流域圏問題（土砂、ごみ等）を流域圏市民全体で問題意識を共有し、話し合いを進め、様々な主体ができることより実践する。また、将来的に解決に結びつけるためのヒントを関係者の話し合いによってそれぞれの考え方を整理していく。 	
＜テーマ＞	＜解決手法＞
ごみ・流木の問題	被害軽減：干潟・水辺のごみ、流木対策検討に向けた調査
豊かな海の生物調査	理想追求：市民、学識等の様ざまな調査より学習・分析
海と人の絆再生	人づくり：心理的・物理的アクセス改善、学校等との連携
干潟・ヨシ原再生	自然再生：川と海の連携による干潟再生

2. 今年度の活動実績

3 ヶ年の 2 ヶ年目にあたる今年度の活動実績は、以下に示すとおりである。

全 8 回の WG を実施し、そのうち 4 回はごみ・流木調査や鳥類観察等の現地活動を行った。

日時	場所	参加人数	活動内容	
5 月 19 日（月） 13:00-15:00	・西尾市役所会議棟 2F 第 4 会議室	18 名	第 17 回 WG	・ H26 年度活動計画
6 月 15 日（日） 9:45-14:45	・愛知県田原市西の浜	●名	第 18 回 WG	・ごみ・流木調査 ・活動報告
7 月 22 日（火） 13:30-15:30	・西尾市役所会 2F 22B 会議室	21 名	第 19 回 WG	・三河湾干潟・浅場造成講義
8 月 9 日（土） 8 月 12 日（火） 9:00-16:00	・東幡豆海岸 トンボロ干潟、前島	5 名	第 20 回 WG	・干潟観察会 ・アンケート調査
9 月 5 日（金） 10:00-14:00	・西尾市役所一色支所 1F 第 4 会議室 ・衣崎漁港、矢作古川 河口部周辺	13 名	第 21 回 WG	・鳥類観察 ・ふりかえり
10 月 11 日（土） 10:15-14:30	・愛知県西尾市一色 佐久島	13 名	第 22 回 WG	・ごみ・流木調査 ・ふりかえり
11 月 19 日（水） 14:00-16:00	・西尾市役所会議棟 2F 第 4 会議室	20 名	第 23 回 WG	・三河湾干潟造成の検討
12 月 17 日（水） 14:00-16:00	・西尾市役所会議棟 2F 第 2 会議室	●名	第 24 回 WG	・海底ゴミや生物調査について ・今年度のとりまとめ ・今後のスケジュール

3. 各テーマの活動成果と課題

今年度の活動成果と課題について、海部会のテーマに沿って以下にまとめる。

<テーマ>	<今年度の活動>	<活動の成果>
<p>ごみ・流木の問題</p> <p>被害軽減： 干潟・水辺のゴミ、流木 対策検討に向けた調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 18 回 WG (西の浜エクササイズと同時開催) ・ 第 22 回 WG (佐久島ビンゴと同時開催) 	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ・流木調査の実施 (2 回分) ・ 山・川部会メンバーの参画 ・ 子どもと親の反応を直接確認
<p>豊かな海の生物調査</p> <p>理想追求： 市民、学識等の様ざまな 調査より学習・分析</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 19 回 WG (田村氏・鈴木氏の講義) ・ 第 21 回 WG (矢作古川河口で鳥類観察) ・ 第 24 回 WG (海底ゴミ・生き物調査結果の確認) 	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三河湾の干潟・浅場造成に関する 行政計画や事業の内容を把握 ・ 鳥類観察を通じて 干潟後背地の土地利用の問題を共有 ・ 海底の生き物等から三河湾の環境を確認
<p>海と人の絆再生</p> <p>人づくり： 心理的・物理的アクセス 改善、学校等との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 20 回 WG (干潟観察会に参加・アンケート) ・ 第 22 回 WG (佐久島ビンゴに参加・アンケート) 	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海部会関係機関主催のイベントに参加 (2 回) ・ アンケート調査を通じて 子どもや保護者の海への意識を把握
<p>干潟・ヨシ原再生</p> <p>自然再生： 川と海の連携による 干潟再生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 19 回 WG (田村氏・鈴木氏の講義) ・ 第 23, 24 回 WG (三河湾干潟造成の検討) 	<p>〔成果〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 矢作ダムの砂を活用した干潟造成の 試験施工に向け関係機関等と方向性共有

(1) テーマ1：ごみ・流木の問題

■今年度活動により分かったこと

《ごみの実態》

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

状況写真

《調査方法》

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

状況写真

■運営方針に見る活動進捗状況の評価

〈評価のまとめ〉

- ・
- ・

〈運営方針からみる取り組み状況〉

- ・ 2ヶ年目以降は、管理者の処理が行き届かない流木ごみの再漂流防止のため、市民活動での処理方法や再利用ニーズなどを調査（個々に情報を持ち寄り）
- ・ 県が進めるごみMAPへの調査結果の活用検討など次年度以降にも引き続き、様々な関係者との連携を検討していく

■今後のごみ調査の課題

-
-
-

(2) テーマ2：豊かな海の生物調査

■今年度活動により分かったこと

《鳥類観察》

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・



■運営方針に見る活動進捗状況の評価


〈評価のまとめ〉

- ・
- ・
- ・
- ・



〈運営方針からみる取り組み状況〉

- ・ ハンドブック等を活用した**干潟現場見学会の実施**
- ・ 勉強会の実施による三河湾再生プロジェクト等の**総合的な海の情報共有の推進**
- ・ ごみの生物影響に関する情報収集と共有
- ・ 水産試験場や漁業者等との連携による調査結果などを活用した、流域圏の干潟生物等のアーカイブ作成（環境学習にも使えるパネル等の作成）

Four solid gray rightward-pointing arrows stacked vertically on the right side of the box.

■今後の生物調査の課題

-
-
-

(3) テーマ3：海と人の絆再生

■今年度活動により分かったこと

《干潟観察会》

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・



《佐久島ビンゴ&アート体験》

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・







■運営方針に見る活動進捗状況の評価

〈評価のまとめ〉

- ・



〈運営方針からみる取り組み状況〉

- ・海から遠のいてしまった子どもの遊び場としての干潟づくりを漁協等の関係者と検討（部分的干潟開放、水場・緑陰等の整備検討） 
- ・生き物調査や清掃活動などの環境学習への参加者の増加を目指した学校関係者等との意見交換 
- ・海での様々な活動者の発掘と活動支援の推進 
- ・海への理解を深めるための勉強会や現地見学会の実施 

■今後の活動に向けての課題

-
-
-

(4) テーマ 4 : 干潟・ヨシ原再生

■今年度活動により分かったこと

《三河湾の干潟造成》 矢作ダムの砂を使った干潟造成

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・



■運営方針に見る活動進捗状況の評価

〈評価のまとめ〉

- ・
- ・

〈運営方針からみる取り組み状況〉

- ・ 河口部の干潟・ヨシ原再生箇所における**生き物のモニタリング調査**
- ・ 関係者（漁業者、市民、学識、行政等）を交えた、今後の左岸河口部等の**干潟再生事業箇所における望ましい再生の姿の検討**
- ・ **干潟現地見学会の実施**（河口干潟や人工干潟の対比、西浦などの干潟再生事例箇所などの調査の実施）
- ・ **ダム砂や川砂の実態調査**や山地域との課題認識等の情報交換の実施

■今後の干潟調査の課題

-
-
-

4. 海部会全体としての活動成果と課題

■運営方針に見る活動進捗状況の評価

1) 個別作業 WG による運営

〈評価のまとめ〉

- ・
- ・
- ・

〈運営方針からみる取り組み状況〉

- ・ 4つの課題テーマについて、**それぞれ作業WGを立ち上げ、内容の検討**を行う。 ➡
- ・ 目標としてきた海部会のメンバーも充実してきたが、まだ、相互の活動情報が十分に理解していない状況もあるため、**海地域内での活動・情報交流の推進を当面の取り組みとする。** ➡
- ・ また、今後、個別WGのコアメンバーを定め、事務局や関係団体等との調整役を務めていく。 ➡

2) 現場での体感を重視した取り組みを実行

〈評価のまとめ〉

- ・
- ・
- ・

〈運営方針からみる取り組み状況〉

- ・ 海への理解を深めるため、**課題に関係する当事者の参加**を積極的に進める ➡
- ・ 課題に係わる好事例については、矢作川流域圏の外の情報も現地へ赴きながら積極的に収集し、流域圏での適用を検討する ➡

■運営上の課題

-
-
-

5. 他部会との連携における成果と課題

■運営方針に見る活動進捗状況の評価

〈評価のまとめ〉

- ・
- ・
- ・

〈運営方針からみる取り組み状況〉

- ・海部会では、**ごみ、流木の流出を減らすため**に有効な山での対策、川や里での対策、海での対策をそれぞれの地域で見つけ実践につなげていくため、**まず出水後の状況を把握する調査を提案** ➡
- ・すぐに解決が難しい**干潟再生に係わる土砂等の問題**についても、将来的な解決のヒントを出せるよう**流域圏市民で一体となり考えていける場づくり（勉強会や現地見学会等）を提案** ➡

■連携上の課題

-
-
-